



Historical / Natural heritage
in Amagi town



こんなにたくさんあるの？ 島の遺跡

135もの遺跡が見つかる徳之島。約25,000年前の旧石器時代には、「島」環境に適応した人々が暮らしていました。約6,000～4,000年前に、サンゴ礁に囲まれた穏やかな海「礁池」(しょうち)ができあがると、豊かな海産に恵まれるようになります。約2,400年前の弥生時代に、本土では稲作を中心とした農耕社会になるものの、島では引き続き海産や木の実などを食べる生活が営まれます。しかし、約1,000年前に突如として農耕と焼き物「カムイヤキ」の生産が始まります。そのころから高台や山中にグスクと呼ばれる城が数多く築かれました。下図では、島の代表的な遺跡をご紹介します。

玉城遺跡 (たまぐすくいせき) 【天城町平土野】

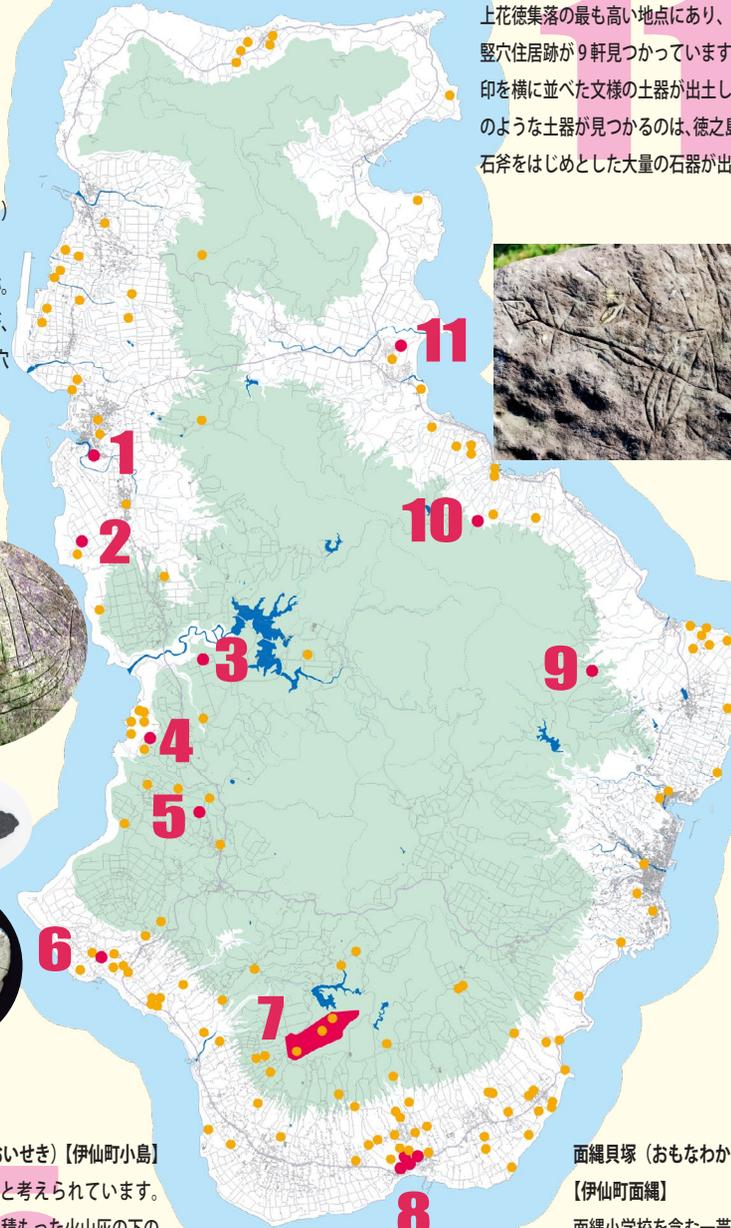
真瀬名川の河口近くの丘にあるグスク跡で、複数の建物の跡が見つかりました。カムイヤキや土器などとともに、約900～700年前の中国の陶磁器や、長崎産の石鍋なども多数出土しました。



塔原遺跡 (とうばるいせき) 【天城町兼久】

2,500年前の大きな集落跡。総面積は35,000㎡にも及び、これまでに31軒以上の竪穴住居跡が見つっています。

1/400,000 Scale



城島遺跡 (うすくばていせき) 【徳之島町花徳】

上花徳集落の最も高い地点にあり、約2,500年前の竪穴住居跡が9軒見つっています。特徴的な「X」印を横に並べた文様の土器が出土しており、現在このような土器が見つかるのは、徳之島町のみ。また、石斧をはじめとした大量の石器が出土しました。



母間の線刻画 (ぼまのせんこくが) 【徳之島町母間】

母間集落の山手、傾斜地にある岩盤や転石などに描かれた線刻画。なかでも、第一の石と呼ばれる石には多くの線刻があり、菱形の矢じりをもつ矢など、描き方が戸森の線刻画と似ています。



戸森の線刻画 (とりのせんこくが) 【天城町瀬滝】

岩肌に、鉄器を用いて船や弓矢などが刻まれています。出土した茶碗や、描かれた船の帆の形から、17世紀頃に描かれたと考えられています。昨年3月、県の文化財になりました。



ナーデントウ遺跡 (なーでんとういせき) 【徳之島町諸田】

井之川岳の裾野、海岸から2.5kmほど内陸にある遺跡。花徳にある城島遺跡と同様に、特徴的な文様の土器が出土しています。また、近隣住民が多くの製作途中の石斧を見つけており、一帯で製作が行われていたようです。



下原竪穴遺跡 (したばらどうけついせき) 【天城町西阿木名】

約6000年前の地層から、多くの石の矢じり、魚の骨や貝のアクセサリー、アマミノクロウサギやイノシシの骨が見つかり、その上の地層からは3,300～3,500年前の墓が見つかりました。



ガラ竿遺跡 (がらざおいせき) 【伊仙町小島】

徳之島で最古の遺跡と考えられています。約25,000年前に降り積もった火山灰の下の地層から、石器が2点出土。このことから、徳之島には25,000年以上前から人々が生活していたようです。



カムイヤキ陶器窯跡 (かむいやきとうきかまあと) 【伊仙町阿三～桜福】

1983年にため池工事中に発見された、約1000～650年前に操業した陶器の窯跡。広範囲の山中に散在し、総数は100基を超えるとされています。窯は、山の斜面をトンネル状に掘って造る初期の登り窯で、壺を中心に、鉢、碗、甕、水注などが生産されました。中世に琉球列島における唯一の陶器窯で、北は長崎県、南は沖縄県の波照間島まで、広範囲で使われました。



面縄貝塚 (おもなわかいづか) 【伊仙町面縄】

面縄小学校を含む一帯に第1～4の四つの貝塚からなり、約7,000～600年前ごろまで続いた集落跡。豊かな礁池(しょうち)に産する魚骨や貝殻のほか、シャコガイやヤコウガイなどを加工したアクセサリーや、道具も多数出土。また、九州の土器や、中国のお金「開元通寶」も見つかり、交易が行われていたようです。石灰岩の岩陰や洞穴は、生活空間とお墓にも利用されていたらしく、石の棺などから多くの人骨が出土しました。



犬田布貝塚 (いぬたぶかいづか) 【伊仙町犬田布】

約3,100～1,600年前の遺跡で、多くの土器や石器とともに、貝や獣骨で作られた道具が大量に出土。特に、貝から作られた道具は多様で、スクレーパー(削る道具)や矢じり、スプーン、先の尖った刺す道具、湯沸し器、釣針などが見つっています。



もっと情報が見られる
電子版はこちら

